

**緊急 新型コロナウイルス感染予防啓発活動**

ミッション名称	緊急 新型コロナウイルス感染予防啓発活動
活動時期	2021年5月～7月
地域	ラオス フアパン県 サムヌア郡、 活動2と3はフアパン県内の10郡全てで実施
上位目標	フアパン県内での新型コロナウイルス感染拡大を最小化する
期待される成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 住民が当該感染症、および感染予防に関する知識を得る</li> <li>● 住民に行動変容が起き、自ら感染予防に適した行動を行う</li> <li>● ワクチン接種の円滑な実施</li> </ul>
活動内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市場関係者・買い物客への感染予防啓発活動</li> <li>2. 若年層への感染予防啓発活動</li> <li>3. 医療機関スタッフへの感染予防啓発活動、ワクチン接種導線整理のサポート</li> <li>4. 貧困家庭への感染予防啓発活動</li> </ol>

## 緊急活動開始の背景

ラオスでは、新型コロナウイルスの世界的感染流行の初期にロックダウンを行っていたため、1年以上感染拡大を最小限に抑えられていましたが、2021年4月のラオス正月後に感染者が急増。ラオスの医療体制の脆弱さを熟知していたため、住民の命を守るためには感染を未然に防ぐことが不可欠と考え、緊急で感染予防啓発活動を立ち上げました。

## 活動内容・実施状況

### 1.市場関係者・買い物客への啓発

人流の多い市場で、関係者および買い物客に感染予防啓発を実施しました。文字が苦手な人も多いため、ラウドスピーカーを通じて音で啓発活動を実施。複数の少数民族が出入りする市場のため、言語も複数対応しました。絵を入れたリーフレットも配布し、声かけをしながらマスク着用や、手洗いが感染予防に効果的なことを伝え、健康教育イベントも開催しました。

- マスク着用率:活動前の40%から63%に増加。
- リーフレット配布数700枚、啓発イベント参加者120名。
- イベント外で啓発教育を受けた人40名。



写真／市場で開催された啓発イベント

緊急 新型コロナウイルス感染予防啓発活動

2.若年層への啓発



活動量が多いため感染源となっている可能性が高かった中・高校生、大学生にメッセージが届く方法を検討し、高校生インフルエンサーと協働して動画を作成しました。TikTokをメインに動画を配信し、フアパン県教育局および公衆衛生局の協力を得て、県内の高等学校等の教育機関でも視聴されました。

再生回数は、合計で128,000回を超えました。

配信方法／TikTok、Facebook、YouTube等

写真／啓発動画の撮影風景

3.医療機関での啓発、ワクチン接種会場の導線整理サポート

ラオスには比較的早い段階で中国製、ロシア製のワクチンが入ってきていましたが、医療従事者の感染予防に関する知識が不十分だったため、ワクチン接種会場の導線は整理されておらず、ワクチン接種会場内には人が密集していました。世界の医療団で大きく絵を入れた導線整理のポスターを13枚作成し、会場に掲示して導線整理をサポートしました。結果、接種会場内での感染リスクを下げることができ、スムーズで安全なワクチン接種が可能になりました。

写真／左：導線が整理される前のワクチン接種会場 右：グリーン色のポスターで導線整理された接種会場



4.貧困家庭への啓発

フアパン県サムヌア郡サムヌア市内にある15の村の貧困家庭※234軒を家庭訪問し、感染予防法を伝えました。情報の貧困も顕著なため、感染症が流行していること、防ぐためにはマスク着用や手洗いが効果的なことを伝え、マスクのつけ方や手の洗い方を指導して、マスク等感染予防品も配布。配布品を使い終わっても、自分たちでマスクを作れるようにマスクの型紙も配布し、継続的な感染予防を可能にしました。

後日、感染予防行動の定着を促進するため、村の有力者や健康啓発員を通じてのフォローアップを依頼しました。



※貧困家庭の選定は、貧困の国際的な指標である月額世帯収入6,000円以下を基準とした。

写真／マスクのつけ方を伝えます